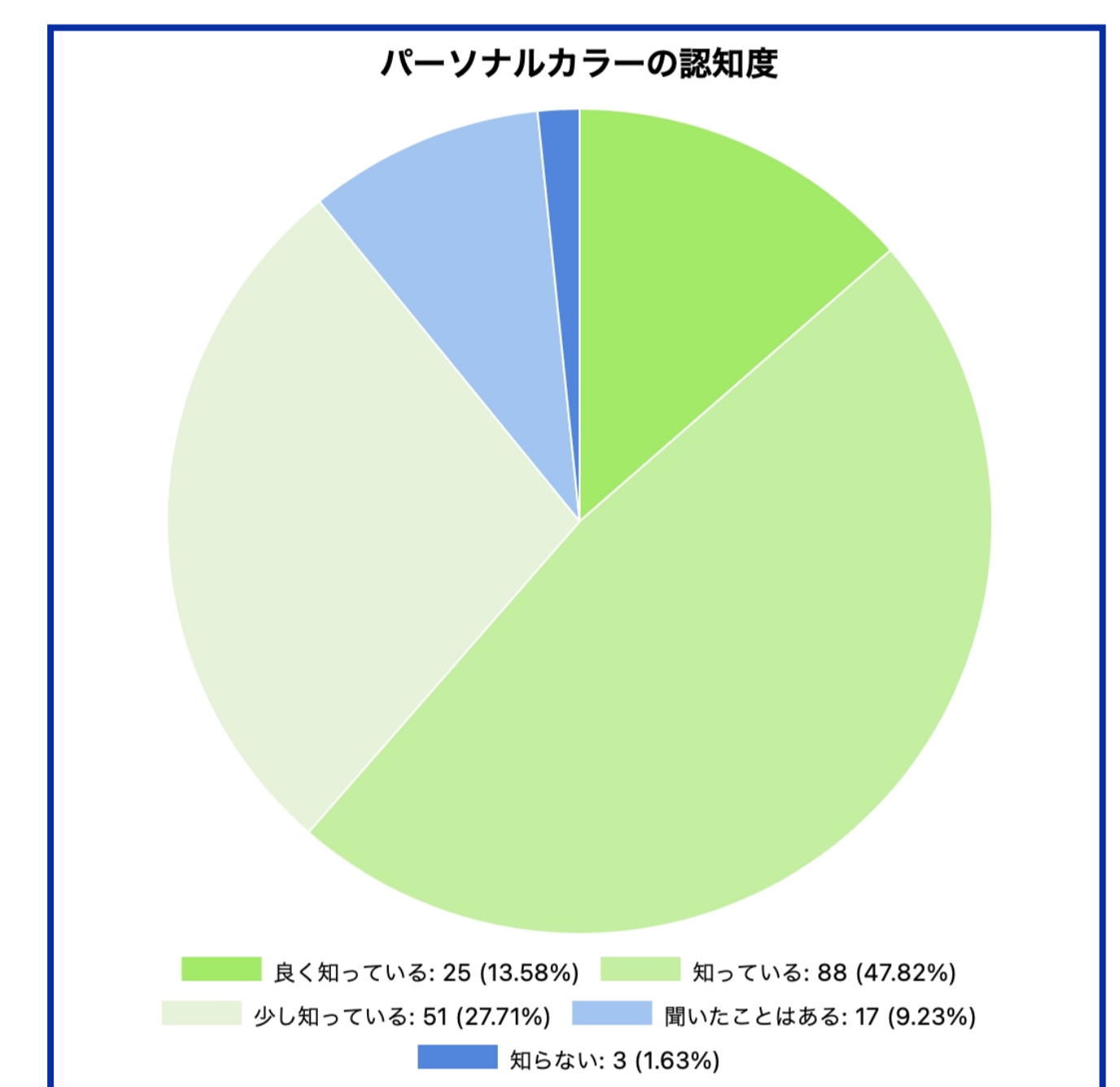


1. 背景

▶ 似合いとは

- ・ 似合う色とは、対象を若々しく輝かせ、透明感や顔色の明るさを高める色でありつつ、他の部分とのバランスも良い色である（ジャクソン・佐藤, 1986）
- ・ 似合いは、表現として一般的に広く用いられているものの、構造の解明が進んでいない
- ・ 人の肌・目・髪の色を分析し、特定の類型に分類することで、「似合う」衣服や化粧の色などのアドバイスを行う「パーソナルカラー」について、2021年時点で女子大生の約89%が「知っている」と回答している（森・小林, 2022）（図1）



（図1）森・小林（2022）より「パーソナルカラー」の認知度

▶ 問題意識

- ・ 好きな色が必ずしも似合う色ではない（ジャクソン・佐藤, 2022）
- ・ 似合わない色と判断された色を使えなくなることを懸念する意識があることが確認された（森・小林, 2022）

2. 背景

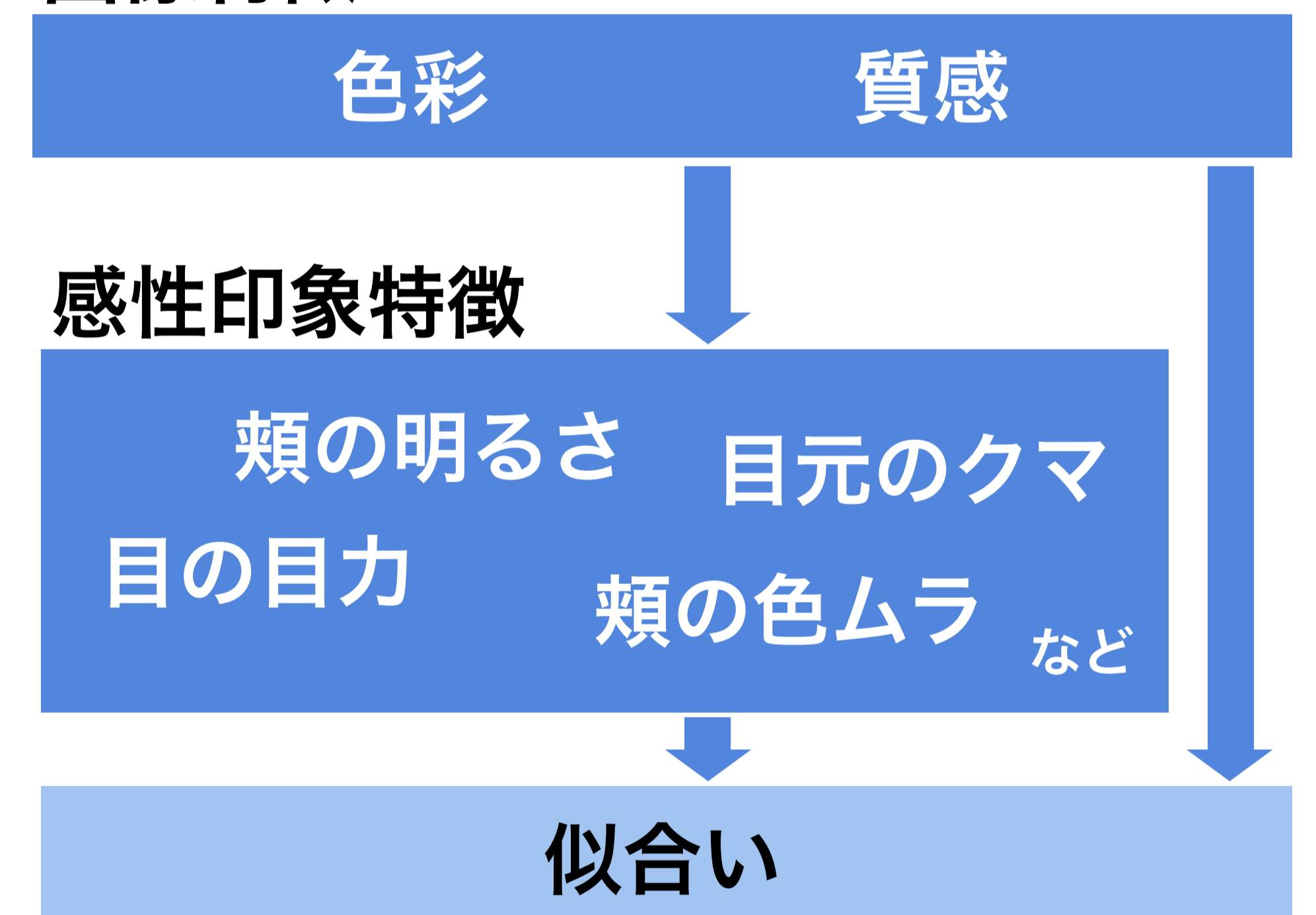
▶ 多元的感性モデル

- ・ 似合いを画像特徴と感性印象特徴を同時に検討したモデルを作成
- ・ 似合いの構造の解明を進めることで、似合わないものを似合いやすくする方法を探る

▶ 活用方法

- ・ 解明した似合いの構造を実装した計算機を用いた、化粧を提案するサービスの開発
- ・ 色彩や質感を手軽に変えることができる化粧品の制作

画像特徴



（図2）似合いを規定するモデルのイメージ図

3. 手法

▶ 刺激の操作・呈示

- ・ FaceGenで取得した5人分の顔の3Dデータを、Blenderを用いて、唇の色彩と質感のみ操作
- ・ 色彩の数値が唇の色ムラの影響を受けないように、唇画像の下唇中心部から取得した画像をPhotoshop2023を用いてスクランブルし、色彩輝度計CS-160で測色する

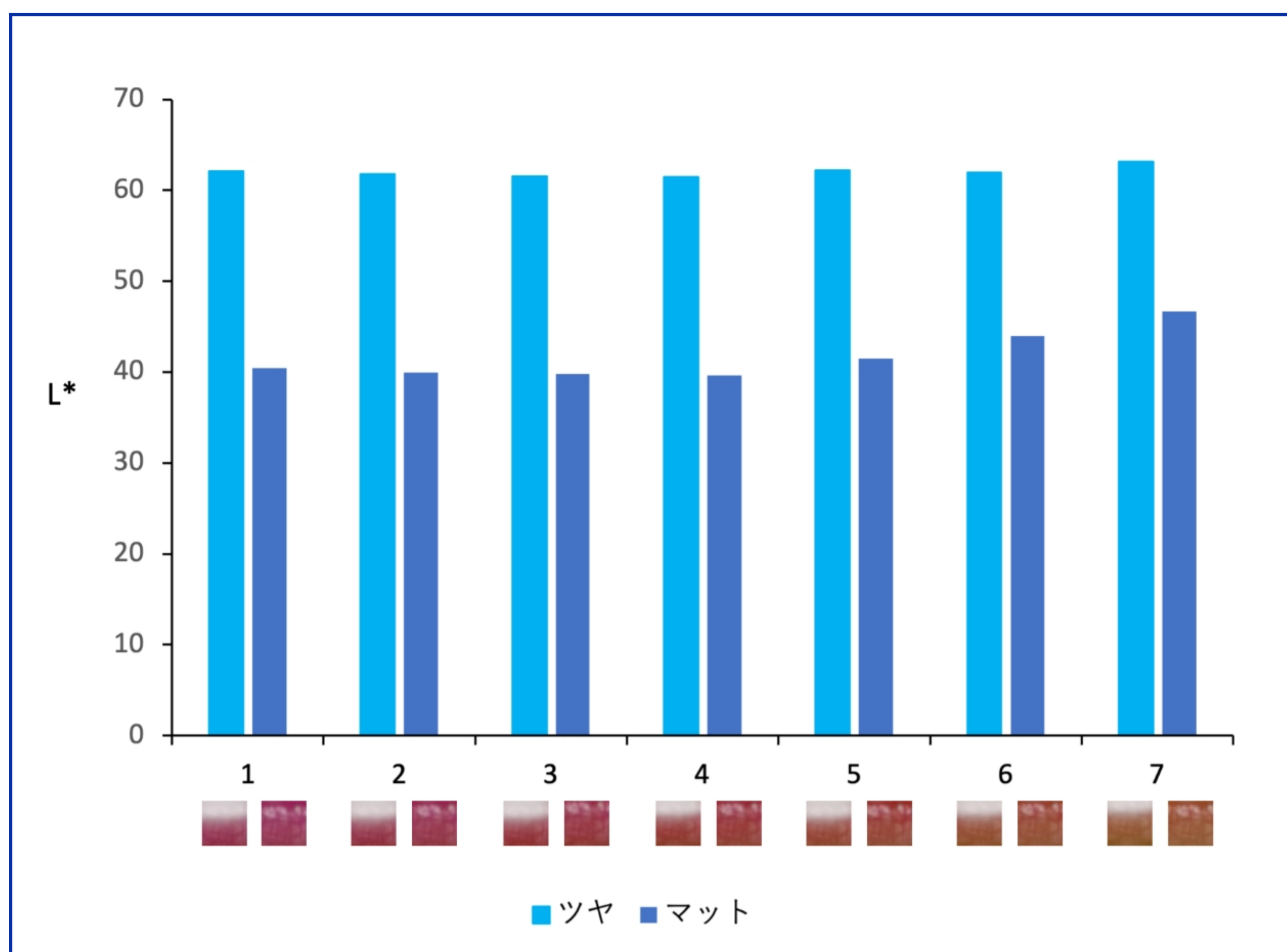
▶ 評価・分析

- ・ 学生かつ性自認が女性の人50人程度に、-5から5の11段階尺度で評価してもらう
- ・ 刺激の色彩・質感の画像特徴量と、得られた感性語評価から取得した下位尺度得点を用い、パス解析を行い、モデルを規定する

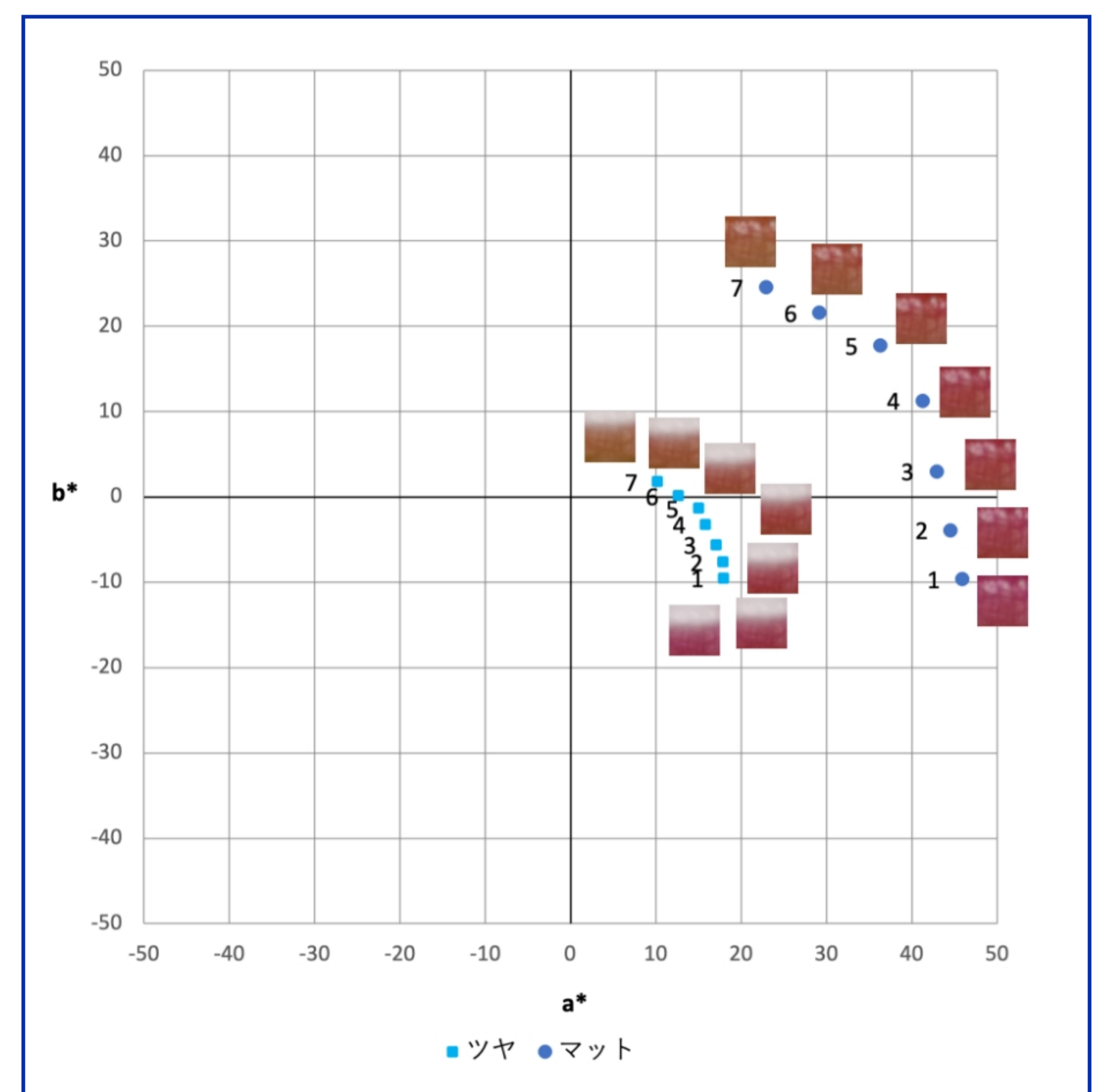
4. 結果・考察

▶パス解析

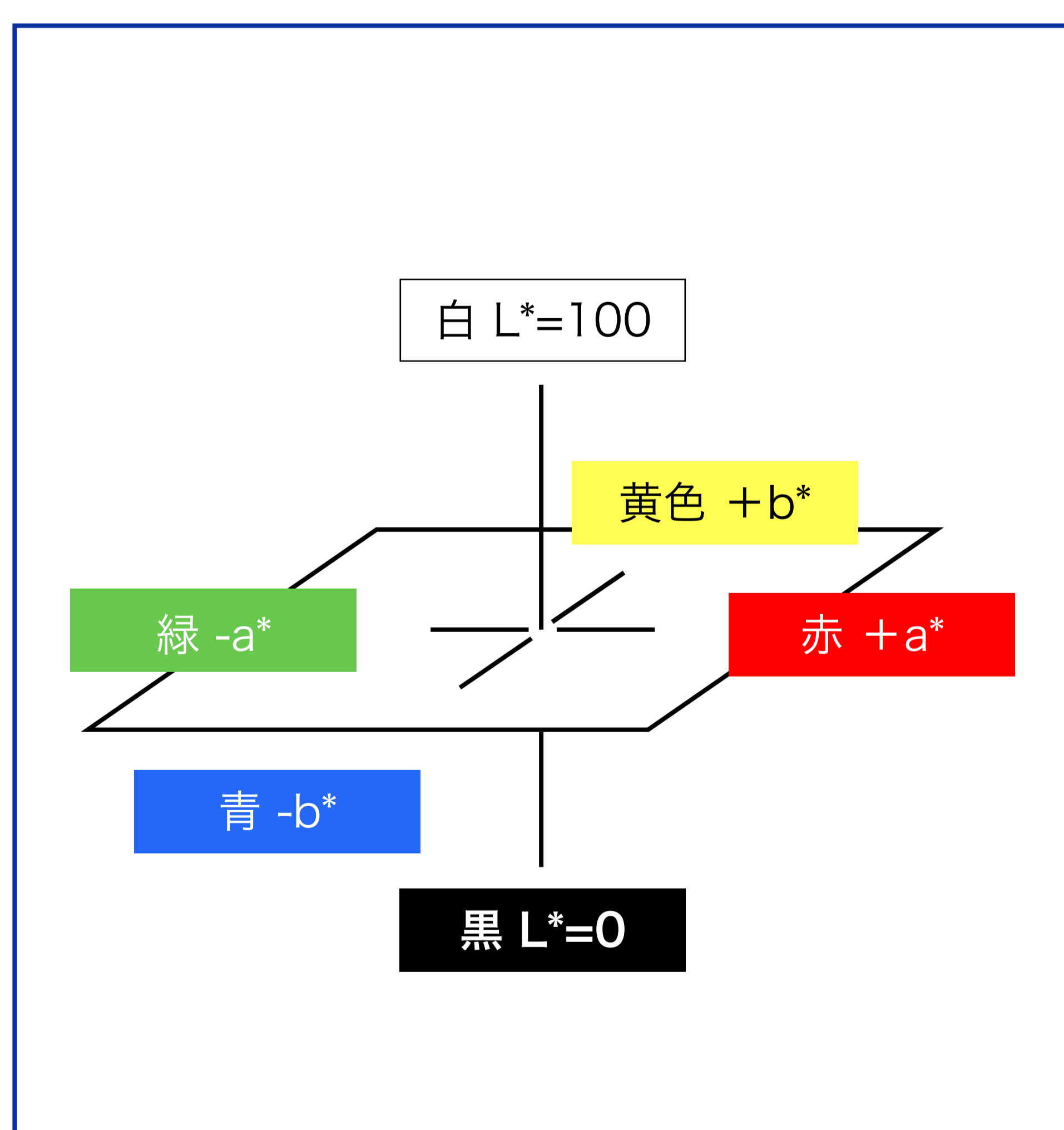
- ・唇に関する画像特徴を取得するため、刺激の測色を行い、CIE L*a*b*の値（図5）に変換した
- ・モデルに含む測色結果の平均をグラフに示した（図3・図4）
- ・パス図（図6）に示した標準偏回帰係数より、唇の特徴の中では、L*が「頬の透明感」に正の影響を、L*が「頬の色ムラ」、「目元のクマ」、「黒目のはっきり感」に負の影響を、a*が「頬の色ムラ」、「目元のクマ」、「黒目のはっきり感」に負の影響を、b*が「頬のツヤ感」、「頬の明るさ」、「目元のクマ」、「目の目力」、「黒目のはっきり感」に負の影響を与えていた
- ・感性印象特徴の中では、「頬の透明感」、「頬のツヤ感」、「頬の明るさ」、「目の目力」、「目のぱっちり感」、「黒目のはっきり感」が、「口紅の似合い」に対して正の影響を与えていた
- ・口紅の色彩や質感によって変化する肌や目の感性印象が、口紅の似合いに影響を及ぼすことが示唆された



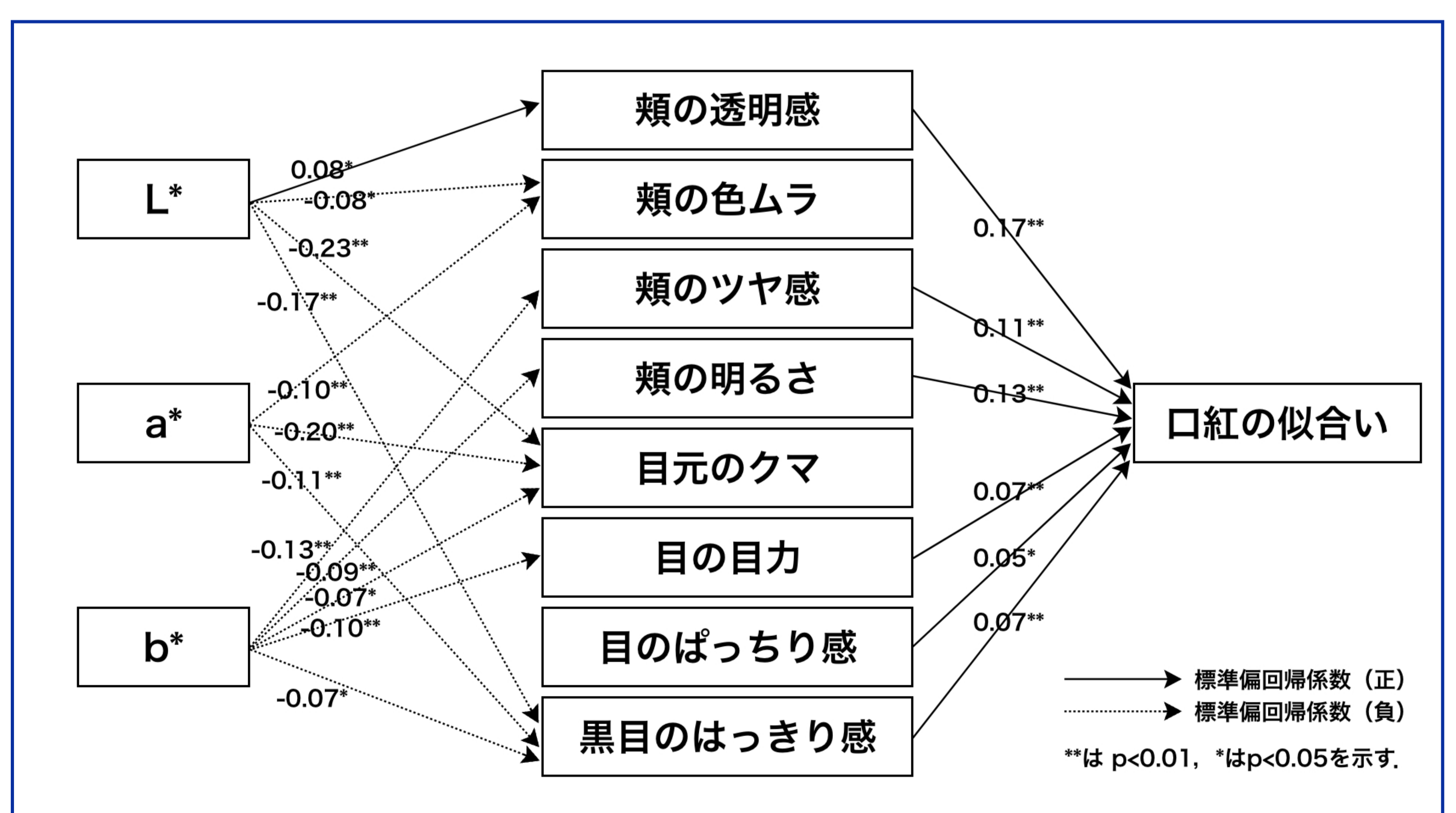
(図3) 測色結果 (L*)



(図4) 測色結果 (a*b*)



(図5) CIE L*a*b*



(図6) パス図

5. 参考文献

キャロル ジャクソン・佐藤 泰子 (1986) . カラー・ミー・ビューティフル 講談社インターナショナル, 2
森 優子・小林 政司 (2022) . 「似合う色」に関する一考察：女子大学生のパーソナルカラーに対する意識調査を通して 大阪樟蔭女子大学研究紀要, 12, 61-69.

6. 謝辞

本研究は、2022 年度秋学期の教育奨励基金「学習・研究奨励金」の助成を受けたものです。寄付元である城南信用金庫に、この場を借りて深く御礼申し上げます。
また、日本視覚学会2023年夏季大会への参加にあたり、慶應SFC学会の助成を受けました。この場を借りて深く御礼申し上げます。